



No.82 何のために戦う(2)



エキサイトニュース(2019.9)から

連日目を覆うような悲惨なウクライナ情勢が報道され、戦争の行方に世界の目が釘付けになっています。権威主義(専制主義)に屈しないという英雄的な戦いに多くの人の同情が集まる一方、強いものが勝つという冷厳な現実にどう対応するか、世界の指導者はいろいろと知恵を巡らしています。

2021年版の米国務省人権報告書は「権威主義(authoritarianism) が人権と民主主義を脅かしている」としてロシア、中国、北朝鮮などを批判しました。敵味方に分かれて戦争をするなら、自分は民主主義のために戦うと言ってもさほど違和感はないでしょう。しかし平時、権威主義と戦うということは、ミャンマー、香港のように軍や警察に逮捕拘禁され、平穏な生活を犠牲にしてでも政府に抵抗する人たちの行動を意味します。自分がになった時、それでも権威主義に服従しない人は、銃を持つ軍人と違って自分を守る物理的手段を持たないまま戦う覚悟が必要です。そう気やすく口にできることではありません。

民主主義国であれば平和になるか？

確かに自由選挙が保障された国であれば国民は戦争にノーと言うことができます。

ただヒトラーもプーチンも当初選挙で政治権力の掌握を正当化しました。日本でも一旦戦争が始まれば国民はノーと言えなかつた。

逆に戦争に勝てば選挙で圧倒的な国民の支持を得るでしょう。トップリーダーの権力基盤は選挙によって強化されます。国民は自国の政府は正義の味方と思いたい。選挙で戦争を抑止できるかというとちょっと心もとない…



谷口博文の政策イノベーション

Date :2022年4月20日

EUの一員であるハンガリーは権威主義的傾向の強いオルバン首相を選挙で選びました。戦時、戦いの目的が民主主義だと言っても、平時において権威主義的政府に誰も抵抗しなくなれば、目的であったはずの民主主義はいつのまにか消えてしまいます。ましてや国民が権威主義の下での平和を享受しているとしたら…

銃を持った者どうしの戦いの勝者が、銃を持たない者の支配者となるという非情な現実があります。
もしどちらが勝っても銃を持たない者を支配することはできないのだとしたら、銃で戦う意味がなくなるだろうに！！